

(2年女子)

今までの探求活動では、甲状腺検査における課題を調べて、整理して、理解し、伝えるということをしてきた。今回参加させていただいて強く感じたことは、これから私たちにもとめられていることは、様々な経験を通してこれまで得てきた知識から、これからの福島の未来についてクリエイティブに考えていくことだということ。

何か物事を進めるにはメリットデメリットがあり、立場によって求めるものも違う。私は福島で震災を経験したが、郡山市にいて避難の対象ではなかった。そんな立場だからこそ、被災した人の方面、行政側の方面、一県民としての方面から、冷静に見つめることができるかもしれない。

最終的に決められるのはそこに住む人達なのだと思う。自分たちは福島に住む人、福島の未来を決める人として、これからの残る最良の選択をしていかなければならないと思った。

(2年男子)

自分は今まで原発の問題については、県民として知っておくべきだとわかっていながら、あまり勉強できていませんでした。しかし、細野氏の本を読んだり細野さんの話を実際に聞いたりすることで、原発によって引き起こされた問題について詳しく知ることができました。また、更にいうと、周りのみんなの社会問題に対する知見の深さに驚きました。自分は今回の話し合いでいかに社会問題に対する知識が足りないのかということを実感したところでした。

(2年男子)

まず、お忙しい中私たちと対談する時間をとってくださった細野先生、開沼先生に心から感謝申し上げます。

細野さんが私たちの話に真剣に耳を傾けてくださったことで、事前のミーティングでは出てこなかったようなアイデアが続出し、大変内容の濃い議論ができました。今回の討論では細野氏・開沼氏が共同執筆された「東電福島原発事故 自己調査報告」をもとに議論を行いました。議論を通して、率直に以下の4つのことを感じました。

- ①誰かを叩いたり、吊るし上げることにはや意味はない。
- ②誰かが決めなければならない。(処理水の処分、除去土壌の受け入れ)
- ③マスメディアには自由だけでなく「責任」も存在する。
- ④専門家がある程度はっきり言うことが大切。(両論併記はかえって悪影響)

また、10年経ったからこそ見えてきた課題についても考えることができました。大きく報道されがちなのは処理水問題ですが、それはまだ序章に過ぎないと思います。処理水のことと解決されても、除去土壌、食品基準、甲状腺検査、専門家育成、双葉郡の再生といった

前述の本にも記されているいくつかの課題が待ち受けています。そして廃炉が終わるころには、建屋の解体によって発生する放射性廃棄物、燃料デブリ、ALPSの吸着塔などの処理水や除去土壌とは比較にならないほどリスクの高いものを処分しなくてはなりません。

これらは、10年間様々な方が努力してきたからこそ見えてきた新たな壁であり、私たちの世代への宿題でもあります。だからこそ、今回のように若者が専門家と対話をしながら正しい知識を得つつ、地域の未来を考える機会がもっと必要だと思います。

2時間という限られた時間の中で、議論しつくせなかったところも多々あり、実際に私たちの中からも「もっと議論がしたい!」という声が多く上がっています。

ぜひ近いうちにまた、細野さんや開沼さんと議論ができることを強く望みます。最後に、節目の10年目そして再スタートの10年目に今回のような貴重な機会をいただけたことをうれしく思います。本当にありがとうございました。

(2年女子)

現在福島県が抱える処理水、除染土壌、甲状腺検査、中間貯蔵施設のこれからなどについて、細野議員という政治的立場にある方と話し合えたことは、本当に意味あるものでした。環境大臣を退任なさった後も、この福島の地に思いを寄せて下さっていることをひしひしと感じ、とてもありがたいことだと思いました。

福島の未来は私たち福島県民が決めていきますが、その際に、よりたくさんの方の関心とご協力があれば、福島はもっとすてきな場所になれると確信しています。そのような意味で、今回の細野議員との対談では本当に大きな力を頂けたとともに、震災を覚えている最後の世代、そしてこれからは担う世代である私たちを鼓舞して下さったように感じました。

貴重な機会を頂けて本当に感謝しています。ありがとうございました。

(2年男子)

細野さん、開沼さんという、福島の復興、原子力発電所事故について精通していらっしゃる方とお話する機会を設けていただき、ありがとうございました。

福島の復興や1Fの事故についての対談会・視察会に参加する者として、また復興について考える者として、そしてこれからも自分の地元の未来について考えていかななくてはならない者として、当時、また現在も最前線に立たれている方のお話を直接お伺いすることができたのは、お話の中身はもちろんのこと、そうした経験をしたということだけでもとても良い刺激になりました。

災害発生当時、どのように考えて施策を行ったのか、被災地、そしてその被災地に向けられていた目がどのようなものであったのか、我々がこれから解決していかななくてはならない課題は何なのかについて、理解を深めることができたように思います。自分たちがこれからの福島、日本を背負っていくのだという意識を強く持ちました。

またこういった機会があれば参加したいです。ありがとうございました。

(2年男子)

まず、現役の政治家の方や社会学者の方と「意見交換」という目的で対等な関係でお話をできたのが非常に良い経験になりました。このような機会を設定していただきありがとうございます。

話し合いを通して、福島が抱える問題の解決の上で、風評被害が懸念事項として残ってしまうことから、放射線教育の重要性を改めて感じました。同時に、僕の考えは「教育ありき」になってしまっている部分が多いので、教える側の問題に関しても考える必要があると感じました。また、数十年後を考えたときに、自分たちの意見が廃炉に関する決定や、中間貯蔵施設のその後などの住民の意見になっていくということを感じ、高校生のうちから本格的な議論をできてよかったなと思いました。

お忙しい中だったこともあり、少し議論が物足りないと思う部分もありました。甲状腺検査に関しては自分たちがまさに当事者であるということもあり、一人一人の意見を聞いてみたかったです。また、専門家育成に関する細野先生の行政の立場からの提言について、将来科学者になるかもしれない我々高校生との意見交換を是非したかったなと思いました。それと、個人的には議員の話、大臣の話、選挙の話など、政治家に関するお話も伺ってみたかったです。

最後に、この活動は個人的に開沼先生が仰った「学びの伝統」を感じる機会となりました。グループワークで一緒に話し合った2人の1年生（男子と女子）が、問題点をしっかり理解した上で自分の考えを持っていて、頼もしいなと思いました。来年度以降も彼らのような人たちを中心としてこのような学びが続いていくといいなと思います。

(1年女子)

私は、今回参加して、様々な意見を聞いて、自分の理解を深め福島の課題について多くの面から考えることができました。

まずトリチウム水について。トリチウム水の放出が原発事故を全く知らない世代までかかれば、新たな誤解が生じると思います。また、放出に長い時間をかけることで、より長い間タンクを置いておかなければならず、管理も大変になり、費用も多くかかると感じました。

次に中間貯蔵施設と再生可能な土についてです。中間貯蔵施設は放射線の研究所または、花などの人体に影響のないものの大規模栽培施設にしてはどうかと考えました。早くその利用法を決めることが復興につながると思います。そして土については、全国や世界規模で復興に貢献しようというプロジェクトを行うという意見に賛成です。

甲状腺検査について、過剰診断による過剰治療の問題がありましたが、治療の必要がない場合は、治療前に医師からの十分な説明を受けたり、検査結果に治療が必要ないことをより理解しやすく記してもらえば、不要な治療による負担や不安を減らすことができると思います。

最後に、食品の基準値については、厳しすぎる基準値は度を過ぎた想定により、必要ない不安とそれへの対応を必要として安心につながらないので、国際基準に合わせるべきだと考えます。ただ、基準を上げることで、なんとなく危ないと思っている人が全くなくなることが心配されるので、不安や混乱が生じないように今の基準と新しい基準が安全であることを十分に説明してもらうことが必要だと感じました。また、食品についても基準値以下であることよりも、おいしいということを伝えるべきであると思いました。それによって値段が安いものに負けないようなブランド力が上がると思います。文化の保護のために挙げるという意見にはとても納得し、そのためなら食品によって基準値を変えるというのもよいのではないかと感じました。日本の基準値が厳しすぎることで外国へも影響が出ていることもわかったので、国際基準へと引き上げるべきだと考えます。

今回細野元大臣のお話を聞いて、今までどうしてやってくれないの?と思っていたことにも理由があり、どの解決策にもメリットとデメリットがあり、実行が難しいことがわかりました。多くの考えを聞くことができたので、これからは様々な面を考慮してより具体的に自分の意見を持ちたいです。

(1年男子)

今回の対談は、福島県をふるさととする人間として復興について考える大変良い機会となりました。

自分は医療に興味があり、甲状腺検査について特にお話しさせていただきました。細野先生と開沼先生の貴著を読んだり友人や家族と話してみたりする過程で、自分がいかに今まで無知であったかを思い知らされましたし、知れば知るほど今まで受け継がれてきた沢山の人の復興への思いを感じ取ることができ、自分もふるさとのために何かできないかと少しずつ考えるようになりました。

また、自分たちの身の回りの沢山の方々が私たちに学びの機会をくださっていることを改めて実感する機会にもなりました。これも福島に生まれた縁だと思います。今ある問題、新たにあらわになるであろう問題、それぞれについて当事者として考えて行きたいという思いが一層強まりました。ありがとうございました。

(1年男子)

当時、実際に政治に携わっていた方の意見は、現実味があつてとても興味深かったです。いざ、何かアクションを起こそうと思っても、政治的なメリット、デメリットが絡んでくるというような話もあり、物事を思い描くように進めるのは難しいことなのだと、改めて感じました。また、今回、尻込みして質問できなかったことがあるので、もしまたこのような機会があったら、自分から積極的に質問、意見等できるようにもなりたいです。

(1年男子)

先日は貴重な機会を設けていただきありがとうございました。2時間という短い時間ではありましたが、当時の事故収束のトップであった細野元大臣と原発に係る課題について深い知識をお持ちの開沼先生との話し合えたことは大変有意義でした。対談を通じて、浜通りの原子力災害被災地域の復興の在り方に関しては国や福島県、双葉郡の自治体とその住民だけでなく、公共機関・民間問わず、全国ひいては世界中の人々と課題を共有し、様々なアイデアを出し合って、双葉郡の人々にとって最良の選択をすることが必要であると考えました。とりわけ、処理水及び除去土壌の処分・活用方法やポスト中間貯蔵施設の土地の利用方針については喫緊の課題であり、処理水では海洋放出、除去土壌では土木工事での利用などの抜本的で大規模な施策を速やかに実行しなければ、復興は立ち行かせることはできません。しかしながら、そのような施策を実行するためには人々に安心感を持たせる必要があると考えます。そのためには、課題は多いと思いますが、例えばまずは試験的に農工業などの日常生活に近い分野で利用して、安全性を確立し、少しずつ信頼を得ていくことが大切だと私は思います。勉学と同じように、基礎を着実に固めていくことが必要なのではないでしょうか。自分自身も被災地域の復興について考えを巡らせ、そのためにできることを一つひとつ実行しながら、これからの復興への歩みに期待したいと思います。

また、おふたりの著書は浜通りの原子力災害被災地に重点をおいたものであったかと思いますが、今後は郡山のような直接的にはあまり原子力災害の被害を受けていないまちについても取り上げられるべきであると考えます。郡山市の職員の方の話によると、東日本大震災当時、地元の地震避難民の受け入れで手いっぱいの中、大勢の浜通りからの避難者に対して、郡山市の職員が手探りでスクリーニング検査をしたそうです。10年前、原子力災害の砦となるはずだったオフサイトセンターは全く機能せず、その皺寄せは地震被災地に及ぶことになりました。その職員の方はオフサイトセンターなどの対応機関は大幅な増強が図られてはいるものの、また似たような原子力災害が起こったときに確実に対応ができるよう、より強固な仕組みづくりが必要であるとも述べられています。こうした現場の切実な思いも後世に伝えていくことは、かつての災害として記憶の片隅に置いておかないようにするために、たいへん重要であると考えます。現場の声が政界や世間に広く伝わり、いつまた起こるかわからない大災害に万全の備えで立ち向かえるようになることを願って、対談の感想といたします。